

春日井市下水道総合地震対策計画(第4回変更)

(様式1)

1. 対象地区の概要

① 地理的状況

春日井市は、愛知県の西寄りに位置し、南は名古屋市と接していることから、古くから大規模なニュータウンが立地し、あわせて大規模な工場が数多く進出しており、現在では人口31万人を擁する中部圏の中堅都市として発展している。

DID地区を有する都市であり、また南海トラフ地震に係る地震災害対策の推進に関する特別措置法に基づく南海トラフ地震防災対策推進地域にも指定されていることから、地区要件に該当する。

② 下水道施設の配置状況

春日井市の公共下水道は、行政面積92.78km²のうち、高蔵寺、中央、南部の3処理区に分けて整備を進めている。

高蔵寺ニュータウン計画に伴い、昭和39年3月に高蔵寺処理区を事業着手し、昭和43年から高蔵寺浄化センターの運転を開始した。中央処理区は昭和46年3月に事業計画を策定し、昭和51年から勝西浄化センターの運転を開始している。さらに平成元年に南部処理区の実業計画を策定し、平成9年から南部浄化センターの運転を開始した。

現在の公共下水道は、全体計画4,687haのうち、3,340ha(高蔵寺1,039ha、中央1,287ha、南部1,015ha)を事業計画に位置付け、平成29年度末において3,201haの汚水整備が完了している。

終末処理場は、高蔵寺浄化センター(現有処理能力36,600m³/日、供用開始人口65,477人)、勝西浄化センター(現有処理能力49,550m³/日、供用開始人口89,122人)及び南部浄化センター(現有処理能力28,700m³/日、供用開始人口57,422人)が設置されており、汚水管渠延長は932kmが整備され、高蔵寺処理区には汚水中継ポンプ場(第1、第2、第3)が3施設設置されている。

雨水排水対策については、勝西ポンプ場(揚水量145m³/分;昭和43年)と南部ポンプ場(揚水量870m³/分;平成9年)を整備し、雨水管渠は335kmを整備して排水能力の増強に努めるほか、大手小学校雨水調整池を整備して雨水流出量の抑制に努めている。

2. 対象地区の選定理由

① 地域防災計画等の上位計画の内容

上位計画である春日井市地域防災計画は、災害対策基本法第42条の規程に基づき、地震災害に対処するため、市の処理すべき事務又は業務に関し、関係機関の協力業務を含めた総合的かつ計画的な対策を定め、効果的な防災活動を実施することを目的として策定されている。

春日井市地域防災計画（地震災害対策計画）では、市役所庁舎を災害対策本部とし、9の防災圏域（味美、西部、鷹来、東野、南部、中部、高蔵寺、坂下及び東部）にそれぞれ防災拠点（防災支援本部）を設置するほか、8の補完施設（知多公民館、第1希望の家、福祉作業所、青年の家、岩成台中学校、保健センター、少年自然の家、第2希望の家）を指定している。

指定避難所として、37の小学校、2の旧小学校施設及び中部大学の40か所を指定避難所に指定している。また、地域に密着した要配慮者対策として、16の福祉避難所を指定している。

地震災害対策計画では、被害を及ぼすと考えられる以下の2つの地震に対して被害想定を行い、災害予防計画、災害応急対策計画、災害復旧計画等を定めている。

- ・海溝型地震（東海地震、東南海地震、東海地震・東南海地震連動、南海トラフで発生する恐れのある地震；平成26年5月30日愛知県防災会議により想定被害が公表）
- ・内陸直下型大地震（震度6強～7程度）

また、当計画の災害予防計画において、下水道を含むライフライン施設については、耐震性の確保等の対策を図るものとしている。

下水道施設については、対策として次の内容を掲げている。

- (1) 管渠施設の耐震化
- (2) ポンプ場及び終末処理場の耐震化

さらに、春日井市地域強靱化計画が令和2年8月に策定され、海溝型地震をモデルとする被害想定が示され、個別施策として下水道施設の耐震化等・下水道BCPの充実が位置付けられている。

② 地形・土質条件

春日井市の地形は、尾張丘陵と濃尾平野が接する地域にあり、南は庄内川を挟んで名古屋市と接しており、全般に東高西低の地盤傾斜をしている。

南西部の低平地は、庄内川及び内津川とその支流の大谷川に沿って沖積低地が分布しており、南部の庄内川沿いは約1.5km幅の広大な帯状の低平地が形成されている。低平地の北側に沿って、階段状の洪積台地を形成しており、標高は南西端12mから中央部付近では100mと高度を増していき、南から低位段丘（鳥居松面）、下位段丘（小牧面）、中位段丘（田楽面）及び高位段丘に区分される。

中央部から東部にかけては、第三紀層の丘陵地を形成しており、標高は100～200mで緩い波状の浸食小起伏面を呈するが、宅地造成等が進んでいる。

うぐい川から東部は、標高380～429mの急峻な山地を形成している。

地質は、東部の山地を構成する秩父古生層が第三紀層の基盤として地下全般に分布しており、花崗岩類が局所的に露出している。第三紀層は、北東から南西へ緩い傾斜で傾いており、西部の市街地や農地の下部に分布している。洪積層は、市街地の大部分を占めて最も広く分布しており、台地や丘陵地の一部を構成している。沖積層は、庄内川や内津川流域の低平地に分布するほか、西部の台地の一部に低平地を形成している。

また、かつて、一部の地域において亜炭が発掘され、東海地方の繊維産業、陶磁器

産業等の今日の産業発展につながる過程における、重要なエネルギー源として活用されていた。

③ 過去の地震記録

過去に本市及び周辺に大きな被害を与えた地震は、次のとおりである。

1. 海溝型地震（南海トラフ沿いに発生する大地震）
東南海地震（昭和 19 年 M7.9：本市は震度 5 で被害は軽微）
南海地震（昭和 21 年 M8.0）
2. 内陸型地震（陸地の断層の破壊によって発生する大地震）
濃尾地震（明治 24 年 M8.0：本市は震度 6 で死者 5 人、負傷者 18 人、建物被害も多数発生した）
三河地震（昭和 20 年 M6.8：本市は震度 4 で被害無し）

④ 道路・鉄道の状況

春日井市は、広域幹線道路である東名高速道路（春日井 IC）、中央自動車道（小牧 JCT・小牧東 IC）、東名阪自動車道（松河戸・勝川）と、主要幹線道路である一般国道 19 号、155 号、302 号などを軸に県道や主要な市道により充実した道路網が形成されている。

鉄道は、JR 中央本線が市南部の行政界に沿って走っており、名古屋駅に直結することから多くの市民の通勤の足となっている。また、高蔵寺駅から瀬戸、豊田、岡崎方面に向けて愛知環状鉄道が走っているほか、勝川駅から名古屋市枇杷島方面に向けて城北線が走っており、名古屋市近郊都市を環状に結ぶ要衝となっている。

⑤ 防災拠点・避難地・要配慮者関連施設・感染症拠点病院・災害拠点病院の状況

春日井市地域防災計画（地震災害対策計画）では、市役所庁舎を災害対策本部とし、9 の防災圏域（味美、西部、鷹来、東野、南部、中部、高蔵寺、坂下及び東部）にそれぞれ防災拠点（防災支援本部）を設置するほか、8 の補完施設（知多公民館、第 1 希望の家、福祉作業所、青年の家、岩成台中学校、保健センター、少年自然の家、第 2 希望の家）を指定している。

指定避難所として、37 の小学校、2 の旧小学校施設及び中部大学の 40 か所を指定避難所に指定している。また、地域に密着した要配慮者対策として、16 の福祉避難所を指定している。

また、医療品供給拠点として総合保険医療センターや保健センターを、救急指定病院として春日井市民病院、東海記念病院及び名古屋徳洲会総合病院を指定している。

⑥ 対象地区に配置された下水道施設の耐震化状況

管渠については、春日井市の全幹線管渠、防災拠点に繋がる管渠及び緊急輸送路に埋設された管渠を重要な管渠と位置付け、その区間の管渠の耐震化は、完了しているため、本計画では、耐震性能を有していない未実施の人孔の耐震化（耐震補強）を実施する。

また、防災拠点や避難所が新たに位置付けられている場合や雨水管渠の耐震化など

を考慮する場合、新たに追加される重要な管渠について耐震診断を実施する。

処理施設については、高蔵寺浄化センターが昭和43年、勝西浄化センターが昭和51年、南部浄化センターが平成9年に運転開始しており、新しい耐震指針の基準を満たしていなかったが、管理棟・管理本館は全ての浄化センターについて、揚水機能を担うポンプ棟は高蔵寺浄化センター及び南部浄化センターが全て、勝西浄化センターが一部について耐震補強を実施し、耐震性が確保されている。

汚水ポンプ場施設については、高蔵寺処理区の3つの中継ポンプ場のうち、第3中継ポンプ場は、耐震補強済である。また第1・2中継ポンプ場については耐震診断を実施済みである。

雨水ポンプ場施設については、南部ポンプ場(南棟)施設は耐震性能を有しているが、南部ポンプ場(北棟)施設と勝西ポンプ場は耐震性能を有していない。

⑦ 実施要綱に示した地区要件の該当状況

対象地区は、DID地域を有していること、南海トラフ地震に係る地震防災対策の推進に関する特別措置法に基づく南海トラフ地震防災対策推進地域に指定されていることから、社会資本整備総合交付金交付要綱ロー7-(3)下水道総合地震対策事業2. 交付対象事業の要件(ア)及び(ウ)に該当する。

対象地区は、地域防災計画に位置付けられた施設等が位置する、下水排除面積1ha以上の排水区域であるため、地区要件を満たしている。

3. 計画目標

① 対象とする地震動

地域防災計画で想定する地震動の中で最も大きな被害が予測される以下地震動を対象とする。

南海トラフ地震(最大震度7程度)クラスの地震動

② 本計画で付与する耐震性能

上記地震動が発生した場合においても、以下に示す下水道施設が果たすべき最低限の機能を確保する。

(処理施設・ポンプ場・管渠(中継ポンプ場))

- (1) 職員・作業員の安全確保
- (2) ポンプ場の揚排水機能の確保

備考) 2. を踏まえ、対象とする地震動と施設に付与する耐震性能を具体的に記述

4. 計画期間

令和元年度～令和10年度（10箇年）

5. 防災対策の概要

- ・雨水管渠の耐震診断
- ・人孔（汚水）の耐震補強
- ・勝西浄化センターの第1プラント沈砂池ポンプ棟の耐震診断・補強
- ・勝西浄化センターの第2プラント沈砂池ポンプ棟の耐震補強
- ・勝西浄化センターの分水槽の耐震診断・補強
- ・勝西浄化センターの第1プラント水処理棟の耐震診断
- ・勝西浄化センターの第2プラント水処理棟の耐震診断
- ・勝西浄化センターの消毒タンクの耐震診断
- ・勝西浄化センターの場内用水施設の耐震診断
- ・勝西浄化センターの汚泥処理棟の耐震診断
- ・勝西浄化センターのホッパー室の耐震診断
- ・勝西浄化センターの汚泥濃縮タンクの耐震診断
- ・勝西浄化センターの脱臭棟の耐震診断
- ・勝西浄化センターの油脂倉庫の耐震診断
- ・南部浄化センターの1系水処理棟の耐震診断
- ・南部浄化センターの放流ゲート室の耐震診断
- ・南部浄化センターの用水施設棟の耐震診断
- ・南部浄化センターの接触タンク棟の耐震診断
- ・南部浄化センターの油脂倉庫の耐震診断
- ・南部浄化センターの汚泥処理棟の耐震診断
- ・高蔵寺処理区第1中継ポンプ場及び第2中継ポンプ場の耐震補強
- ・勝西ポンプ場の耐震診断
- ・南部ポンプ場の耐震診断

6. 減災対策の概要

- ・マンホールトイレの設置
災害時におけるトイレ使用の確保を目的として、指定避難所26箇所及び福祉避難所10箇所に、災害用トイレとしてマンホールトイレを整備し避難地としての機能を確保する。
平成30年度までに指定避難所23箇所に169基を設置済みであり、今回計画において令和9年度までに指定避難所3箇所に14基、福祉避難所8箇所に37基、合計11箇所、51基を設置予定である。
- ・下水道BCP
「春日井市下水道事業業務継続計画(下水道BCP)」の見直しを常に行い、非常時の体制強化を図る。

7. 計画の実施効果

- ・管路施設については、雨水管路施設の耐震診断を実施し、耐震性能が不足する管路施設を補強することにより、流下機能を確保するとともに、緊急輸送道路の交通機能を確保する。

重要な管渠(汚水) 耐震化率 管：100% 人孔：67⇒100%
 重要な管渠(雨水) 耐震診断実施率 0⇒100%

- ・処理施設については、勝西浄化センターの第1・第2プラント沈砂池ポンプ棟及び分水槽の耐震補強を行い、揚排水機能を確保し、さらに第1・第2プラント水処理棟、消毒タンク、場内用水施設、汚泥処理棟、ホッパー室、汚泥濃縮タンク、脱臭棟、油脂倉庫の耐震診断を実施し、耐震性能が不足する施設を補強することにより、処理機能を確保する。また、南部浄化センターの1系水処理棟、放流ゲート室、用水施設棟、接触タンク棟、油脂倉庫、汚泥処理棟の耐震診断を実施し、耐震性能が不足する施設を補強することにより、処理機能を確保する。

職員・作業員の安全確保 耐震化率 100%(管理棟 3/3)
 揚排水機能の確保(汚水) 耐震化率 60⇒80%(沈砂池ポンプ棟 3/5⇒4/5)
 消毒・沈殿・脱水機能 耐震診断実施率 33%⇒100%(処理場 1/3⇒3/3)
 その他施設 耐震診断実施率 0%⇒66%(処理場 0/3⇒2/3) ※1/3は廃止予定

- ・ポンプ場については、高蔵寺処理区第1・第2中継ポンプ場の耐震補強を行い、揚排水機能を確保するとともに、南部ポンプ場の耐震診断を実施し、耐震性能が不足する施設を補強することにより、揚水機能を確保する。

中継ポンプ場(汚水) 耐震化率 33%⇒66%(2/3)
 揚排水機能の確保(雨水) 耐震化率 33%(ポンプ棟 1/3)
 揚排水機能の確保(雨水) 耐震診断実施率 33%⇒100%(ポンプ棟 3/3)

- ・指定避難所及び福祉避難所にマンホールトイレを設置することにより、トイレ機能を確保する。

利用可能者数(長期) 12,030人⇒14,639人

備考) 被害低減額、耐震化率等の実施効果を具体的に記載し、定性的な効果も可能な限り記述

備考) 資料提出にあたっては耐震対策の優先順位を設定した根拠及び耐震対策毎の効果について整理した資料を添付

8. 下水道BCP策定状況

- ・ (有) (平成27年9月策定・令和4年4月改定済)
- ・ 策定予定 (令和〇年〇月末策定予定)

備考) 該当部分を○で囲み、策定日又は策定予定日(計画期間内に限る)を記述

(様式2)

市町村名 (都道府県名)	春日井市 (愛知県)	計画対象面積	3,340ヘクタール
緊急に実施すべき対策(整備概要)	<p>(管路施設)</p> <ul style="list-style-type: none"> 雨水管路施設の耐震診断 63,466m 汚水管路施設の耐震補強(人孔) 439箇所 <p>(処理施設)</p> <ul style="list-style-type: none"> 勝西浄化センターの耐震化 (第1・第2プラント水処理棟、消毒タンク、場内用水施設、汚泥処理棟、ホッパー室、汚泥濃縮タンク、脱臭棟及び油脂倉庫の耐震診断) (第1プラント沈砂池ポンプ棟、第2プラント沈砂池ポンプ棟及び分水槽の耐震補強) 南部浄化センターの耐震化 (第1水処理棟、放流ゲート室、用水施設棟、接触タンク棟、油脂倉庫及び汚泥処理棟の耐震診断) <p>(ポンプ施設)</p> <ul style="list-style-type: none"> 高蔵寺処理区第1・第2中継ポンプ場の耐震化 勝西ポンプ場の耐震化(耐震診断) 南部ポンプ場の耐震化(北棟の耐震診断) <p>(その他施設)</p> <ul style="list-style-type: none"> マンホールトイレシステムの整備(指定避難所) 3箇所 マンホールトイレシステムの整備(福祉避難所) 8箇所 (11箇所、51基) 		

備考 計画期間内に耐震化・整備する全ての施設の概要を具体的に記入する。

管渠調書								
管渠の名称	処理区 の 名称	合流・汚 水・雨水 の別	主要な管渠内 法寸法 (ミリメートル)	耐震化対象 延長 (メートル)	事業内容 (耐震化工法)	概算 事業費 (百万円)	工期	備考
鯨第1雨水幹線 ほか	鯨第1排水 区 ほか	雨水	径1500ほか	63,466	耐震診断	60	R5	
高蔵寺4号幹線 ほか	高蔵寺処 理区ほか	汚水	1号人孔ほか	439箇所	耐震補強	1,355	R5~ 10	
計						1,415		

備考

- 耐震化事業を実施する管渠を記入する。
- 事業内容は「管更生工法」「可とう管化」等を記入する。
- マンホールの浮上防止対策についても本調書に記入し、備考欄に対象マンホール数を記入する。
- 備考欄には、地震対策上の位置付けを記入する。

処理施設調書							
終末処理場名称	耐震化対象施設名	施設能力	事業内容 (耐震化工法)	概算事業費 (百万円)	工期	備考	
勝西浄化 センター	第1プラント 沈砂池ポンプ棟	0.733 m ³ /秒	耐震診断※分水槽含	19	R2		
			鉄筋コンクリート 増打ち及び 鉄筋補強 仮設工	720	R4~7		
			鉄筋コンクリート 増打ち及び 鉄筋補強	53	R1		
	分水槽			鉄筋コンクリート 増打ち及び 鉄筋補強 仮設工	616	R4~7	
	第1プラント 水処理棟	最初沈殿池	40m ³ /m ² ・d	耐震診断	41	R2	
		反応タンク	4.8hr				
		最終沈殿池	30m ³ /m ² ・d				
	第2プラント 水処理棟	最初沈殿池	40m ³ /m ² ・d	耐震診断	37	R2	
		反応タンク	17.0hr				
		最終沈殿池	25m ³ /m ² ・d				
	消毒タンク	15min	耐震診断	12	R2		
	場内用水施設		耐震診断	13	R5		
	汚泥処理棟		耐震診断	18	R5		
	ホッパー室		耐震診断	8	R5		
	汚泥濃縮タンク	60kg/m ² ・d	耐震診断	15	R5		
脱臭棟		耐震診断	8	R5			
油脂倉庫		耐震診断	6	R5			
南部浄化センター	1系 水処理棟	最初沈殿池	50m ³ /m ² ・d	耐震診断	67	R4	
		反応タンク	14.6hr				
		最終沈殿池	15m ³ /m ² ・d				
	放流ゲート室		耐震診断	12	R4		
	用水施設棟		耐震診断	14	R5		
	接触タンク棟	15min	耐震診断	12	R4		
	油脂倉庫		耐震診断	6	R5		
	汚泥処理棟		耐震診断	17	R5		
計				1,694			

備考

- 1 施設名については、「最初沈殿池」「反応タンク」「最終沈殿池」等と記入する。
- 2 施設能力は、施設ごとに単位を含めて記入する。

ポンプ施設調書						
ポンプ施設名称	震化対象施設名	施設能力	事業内容 (耐震化工法)	概算事業費 (百万円)	工 期	備 考
第1中継 ポンプ場 (高蔵寺処理区)	ポンプ棟	0.124 m ³ /秒	鉄筋コンクリート 増打ち及び 鉄筋補強を想定	14	R2~R5	
	沈砂池					
	流入渠・放流渠					
第2中継 ポンプ場 (高蔵寺処理区)	ポンプ棟	0.073 m ³ /秒	鉄筋コンクリート 増打ち及び 鉄筋補強	35	R1	
	沈砂池					
	流入渠・放流渠					
勝西 ポンプ場	ポンプ棟 沈砂池 吐出槽	14.5m ³ /秒	耐震診断	36	R5	
南部 ポンプ場	第1期整備 ポンプ棟 沈砂池 吐出槽	14.5m ³ /秒	耐震診断	32	R2	
計				117		

備考

1. 耐震化対象施設名は「ポンプ井」「雨水滞水池」等と記入する。
2. 施設能力は、施設ごとに単位を含めて記入する。

その他施設調書※1							
施設名称	設置場所	能力※2	設置数量※3	事業内容 (耐震化工法)	概算事業費 (百万円)	工 期	備考
マンホール トイレ システム	石尾台小学校	300	5	新設	8	R1	2.16ha
	岩成台小学校	350	6	〃	8	R1	1.97ha
	総合福祉センター ・福祉作業所	298・ 180	8	〃	14	R2	同一敷地 2.00ha
	味美ふれあい センター	213	4	〃	7	R4	0.33ha
	旧西藤山台 小学校施設	160	3	〃	6	R5	旧小学校の 再整備時 1.87ha
	東部市民センター	118	2	〃	5	R2	1.61ha
	西部ふれあい センター	241	5	〃	8	R5	1.15ha
	高蔵寺ふれあい センター	199	4	〃	7	R6	0.36ha
	保健センター	310	6	〃	8	R7	0.82ha
	知多公民館	330	6	〃	8	R8	0.52ha
	第一希望の家	90	2	〃	5	R9	0.39ha
計			51		84		

※1：その他施設＝マンホールトイレシステム、備蓄倉庫、耐震性貯水槽等

※2：長期収容人数＋拠点参集指定職員数（人）

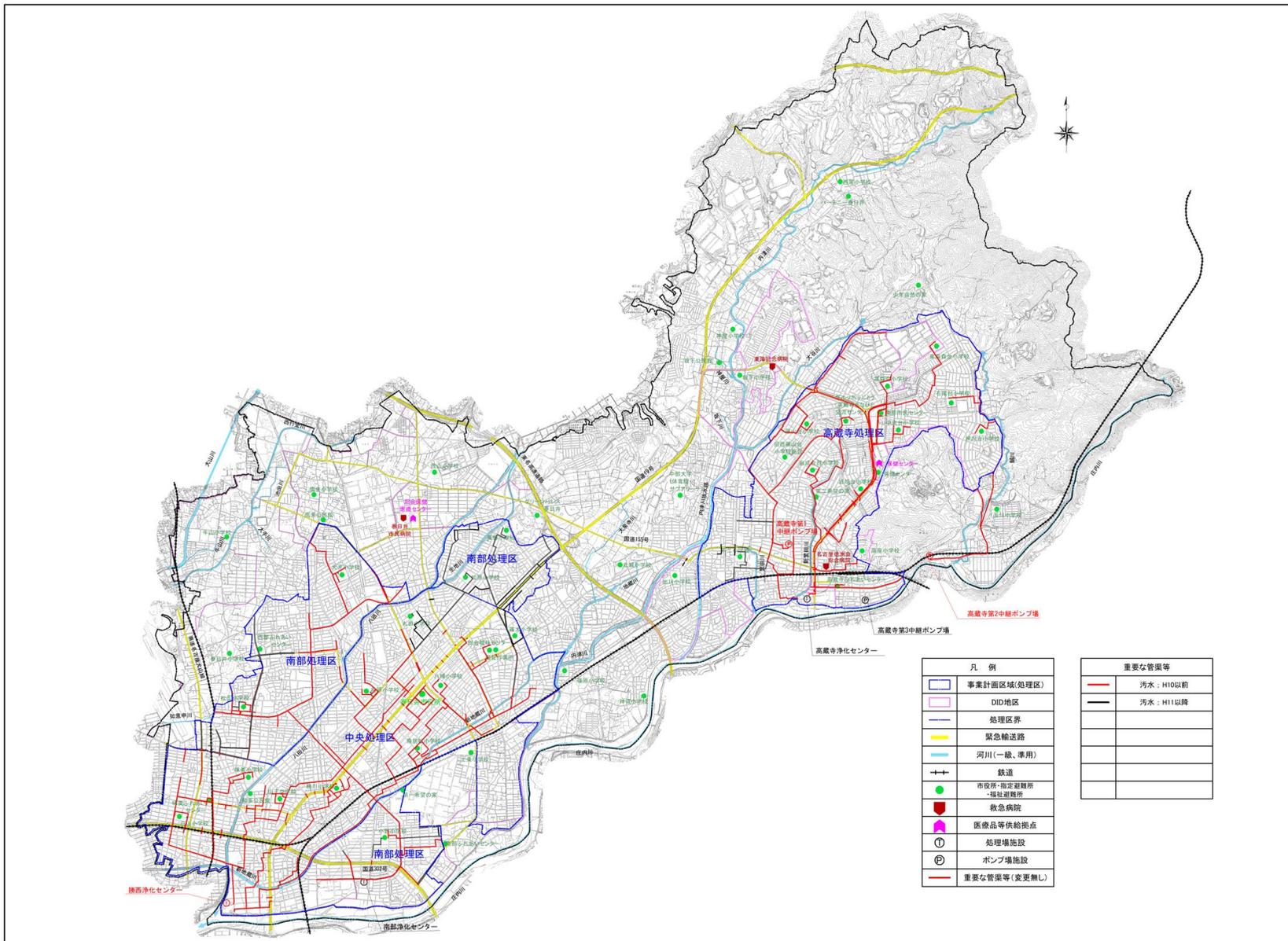
※3：基数

年次計画及び年割額													(百万円)	
工事内容		令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	計	事業量	
管渠施設	雨水管渠					耐震診断 60						60		
	污水管渠(人孔)					実施設計 35		耐震補強 330	耐震補強 330	耐震補強 330	耐震補強 330	1,355	439箇所	
処理施設	勝西浄化センター	第1プラント沈砂池ポンプ棟	耐震診断 19		実施設計 20		耐震補強 100	耐震補強 600				739		
		第2プラント沈砂池ポンプ棟	耐震補強 53									53		
		分水槽		耐震診断 (第1プラント沈砂池ポンプ棟を含む)		実施設計 16		耐震補強 100	耐震補強 500				616	
		第1プラント水処理棟		耐震診断 41									41	
		第2プラント水処理棟		耐震診断 37									37	
		消毒タンク		耐震診断 12									12	
		場内用水施設					耐震診断 13						13	
		汚泥処理棟					耐震診断 18						18	
		ホッパー室					耐震診断 8						8	
		汚泥濃縮タンク					耐震診断 15						15	
	南部浄化センター	脱臭棟					耐震診断 8						8	
		油脂倉庫					耐震診断 6						6	
		1系処理棟				耐震診断 67							67	
		放流ゲート室				耐震診断 12							12	
		用水施設棟					耐震診断 14						14	
	接触タンク棟				耐震診断 12							12		
	汚泥処理棟					耐震診断 17						17		
	ポンプ施設	高蔵寺処理区第1中継ポンプ場			実施設計 8		耐震補強 6						14	
		高蔵寺処理区第2中継ポンプ場	耐震補強 35										35	
勝西ポンプ場						耐震補強 36						36		
南部ポンプ場第1期整備			耐震診断 32									32		
その他施設	マンホールトイレシステム	2箇所 11基 16	2箇所 10基 19		1箇所 4基 7	2箇所 8基 14	1箇所 4基 7	1箇所 6基 8	1箇所 6基 8	1箇所 2基 5		84	11箇所 51基	
合計		104	160	8	134	256	207	1,438	338	335	330	3,310	合計	

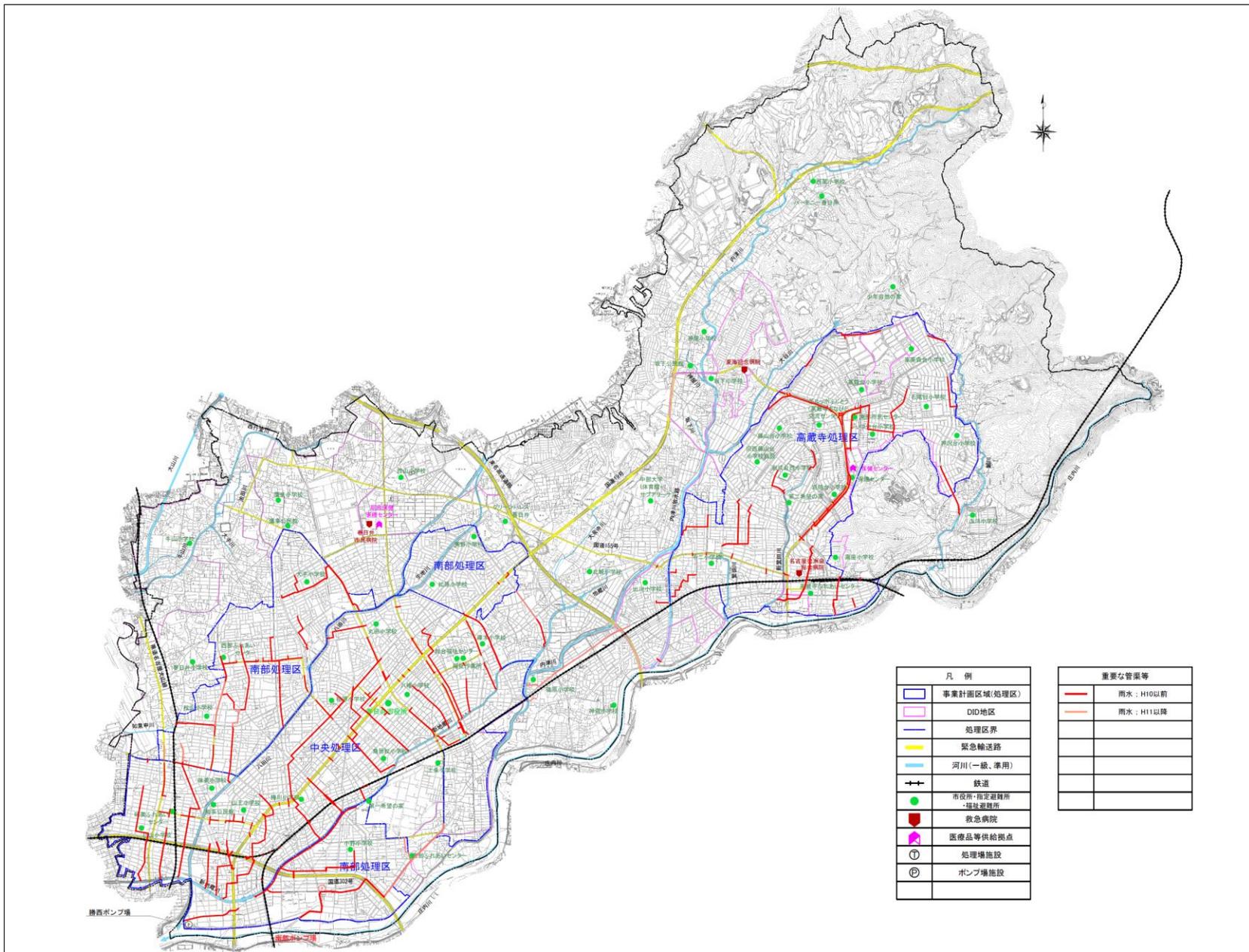
備考

- 1 調書に位置付けた施設について年割額(事業費)を記入する。
- 2 整備済のものは含めない。
- 3 事業量には事業毎に単位を記入する。

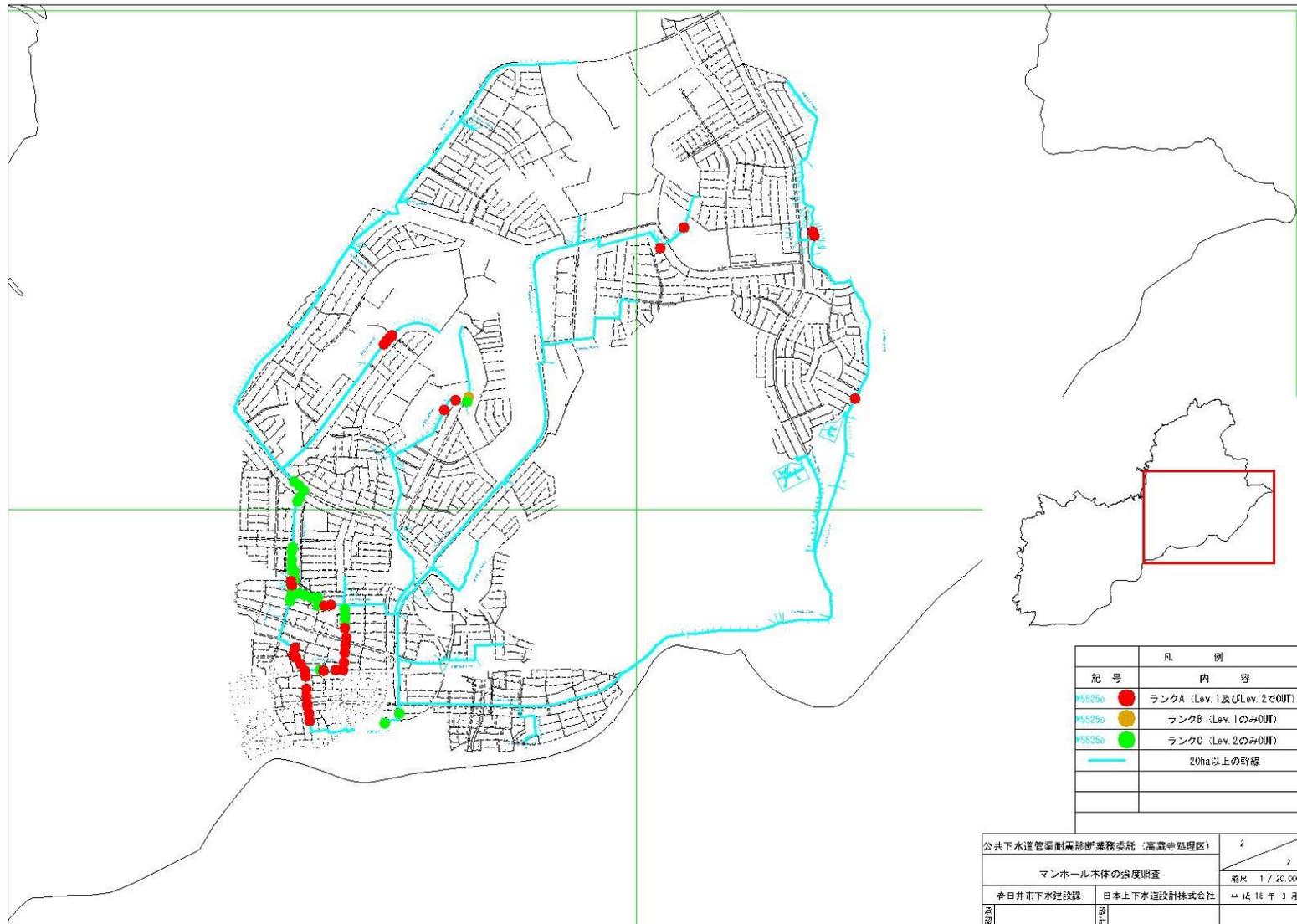
参考図面



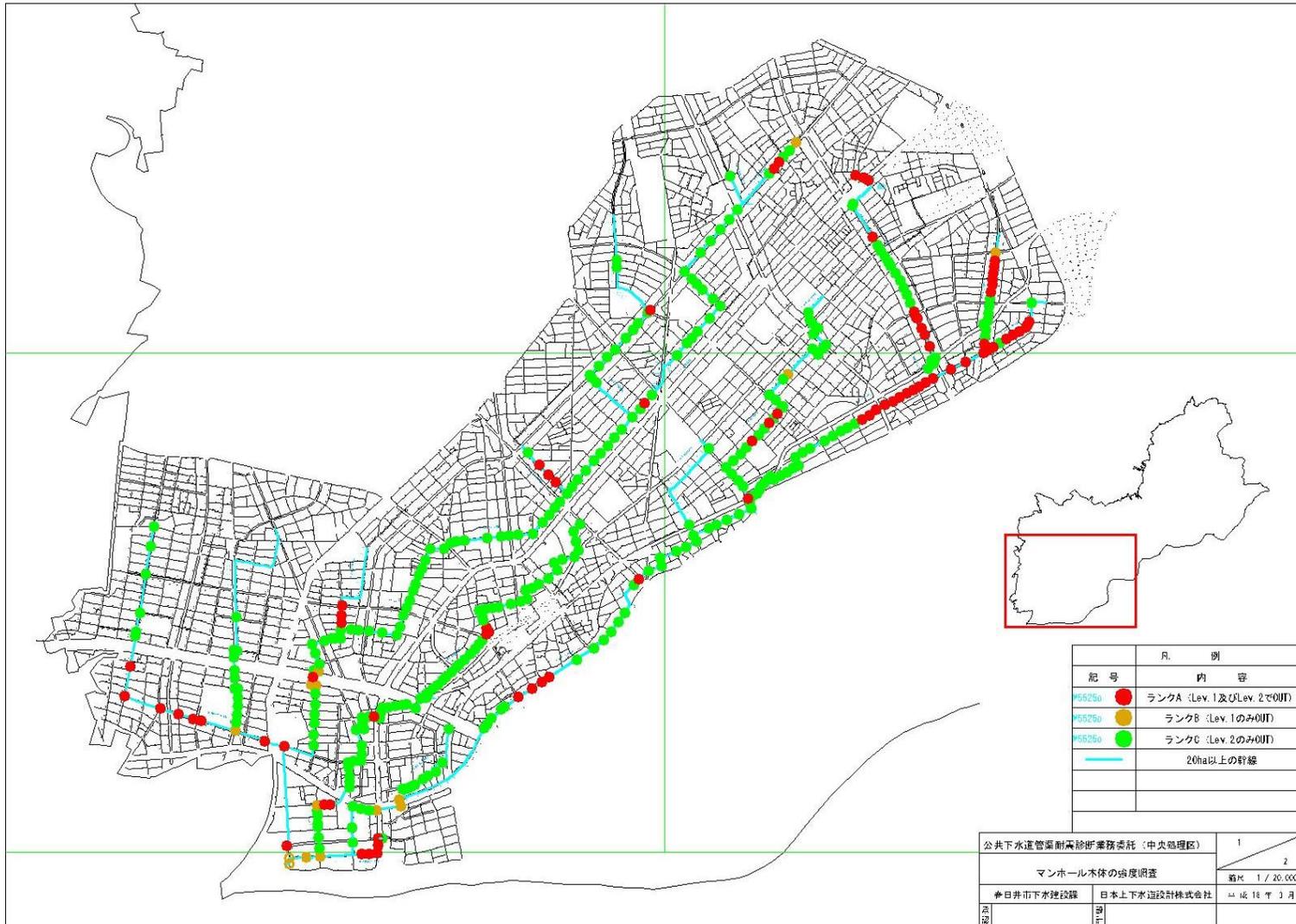
管路施設耐震対策一般平面図(汚水)



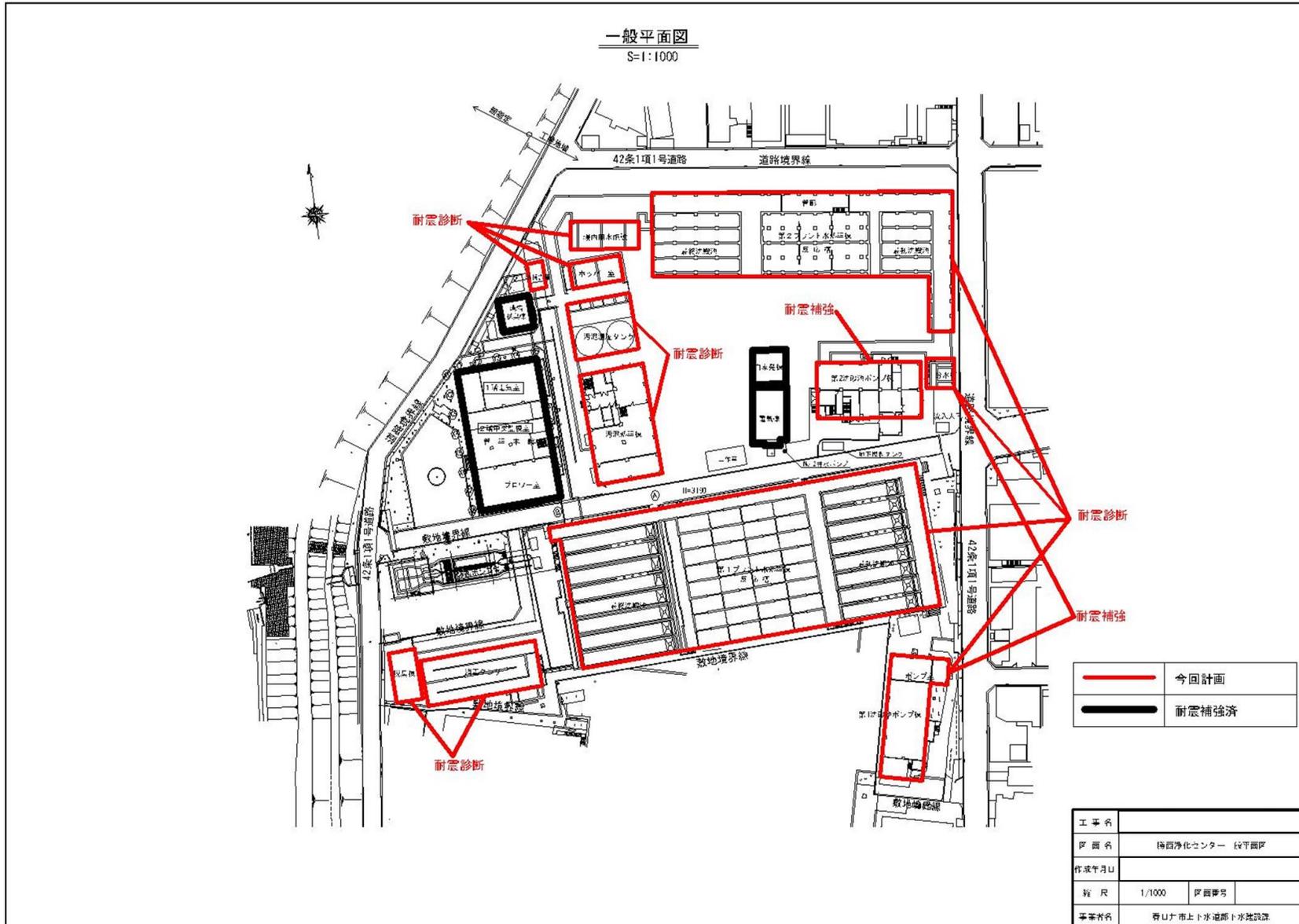
管路施設耐震対策一般平面図(雨水)



重要な管路施設(汚水)の耐震診断結果(高蔵寺処理区)

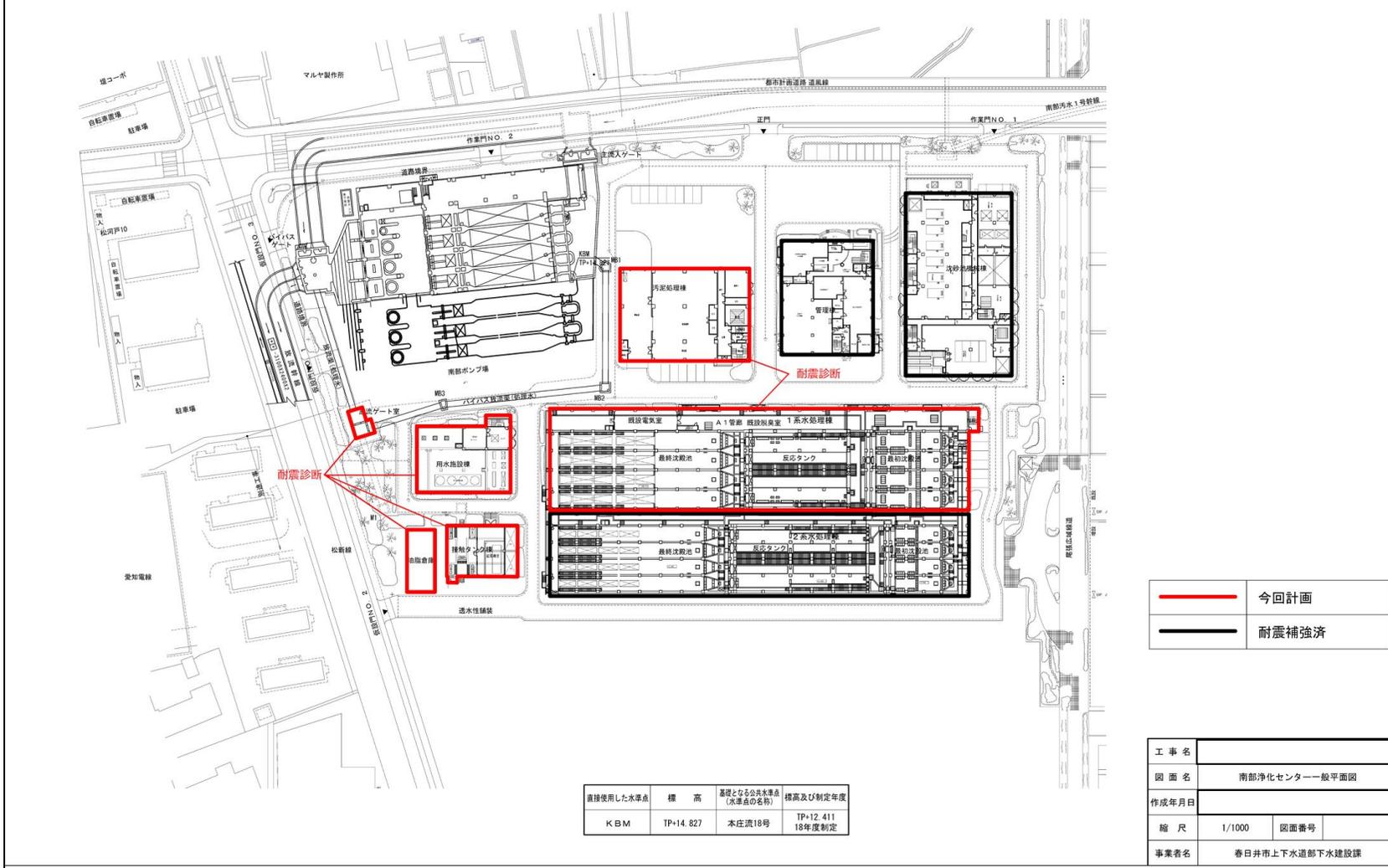


重要な管路施設(汚水)の耐震診断結果(中央処理区)



勝西浄化センター耐震対策対象施設

一般平面図
S=1:1000



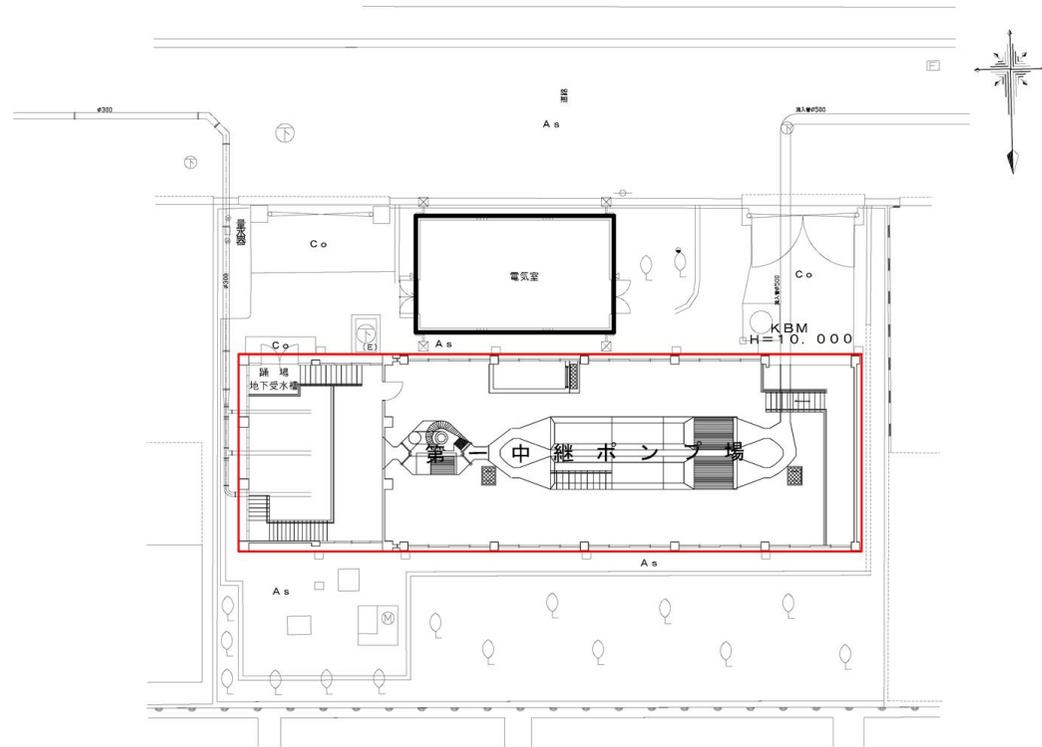
	今回計画
	耐震補強済

直接使用した水準点	標高	基準となる公共水準点 (水準点の名称)	標高及び制定年度
KBM	TP+14.827	本庄流18号	TP+12.411 18年度制定

工事名			
図面名	南部浄化センター一般平面図		
作成年月日			
縮尺	1/1000	図面番号	
事業者名	春日井市上下水道部下水建設課		

南部浄化センター耐震対策対象施設

繁田公園



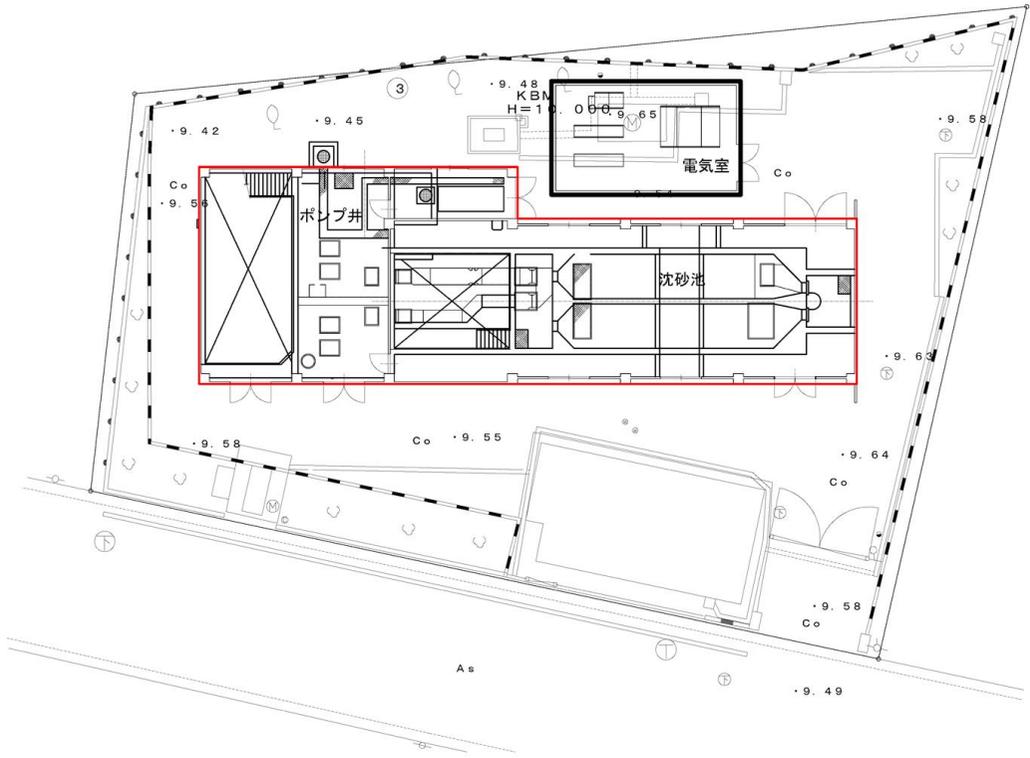
	今回計画
	耐震補強済

第1中継ポンプ場 一般平面図 1:200

工事名			
図面名	第1中継ポンプ一般平面図		
作成年月日			
縮尺	1/200	図面番号	
事業者名	春日井市上下水道部下水建設課		

第1中継ポンプ場耐震対象施設

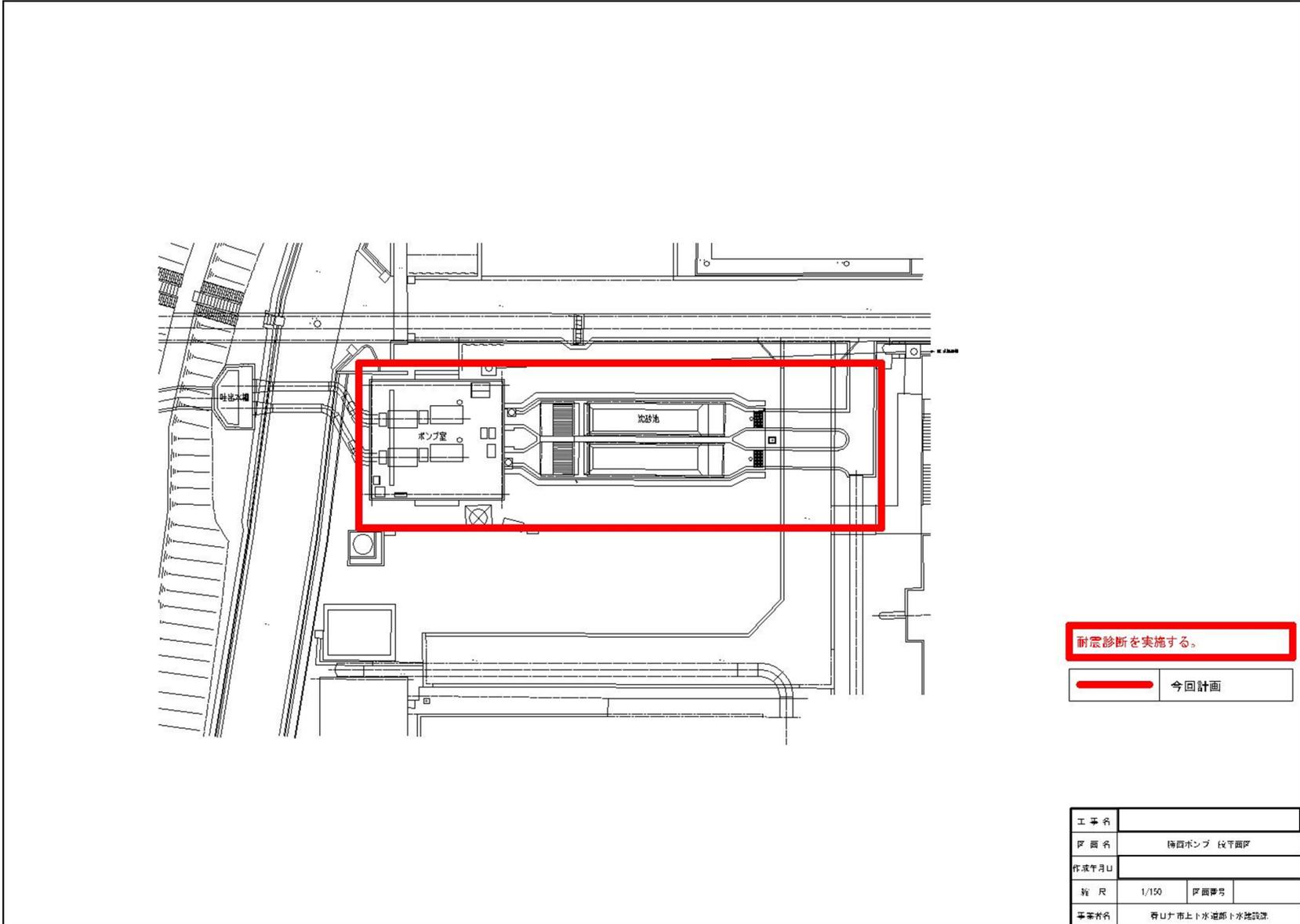
春日井市高座町



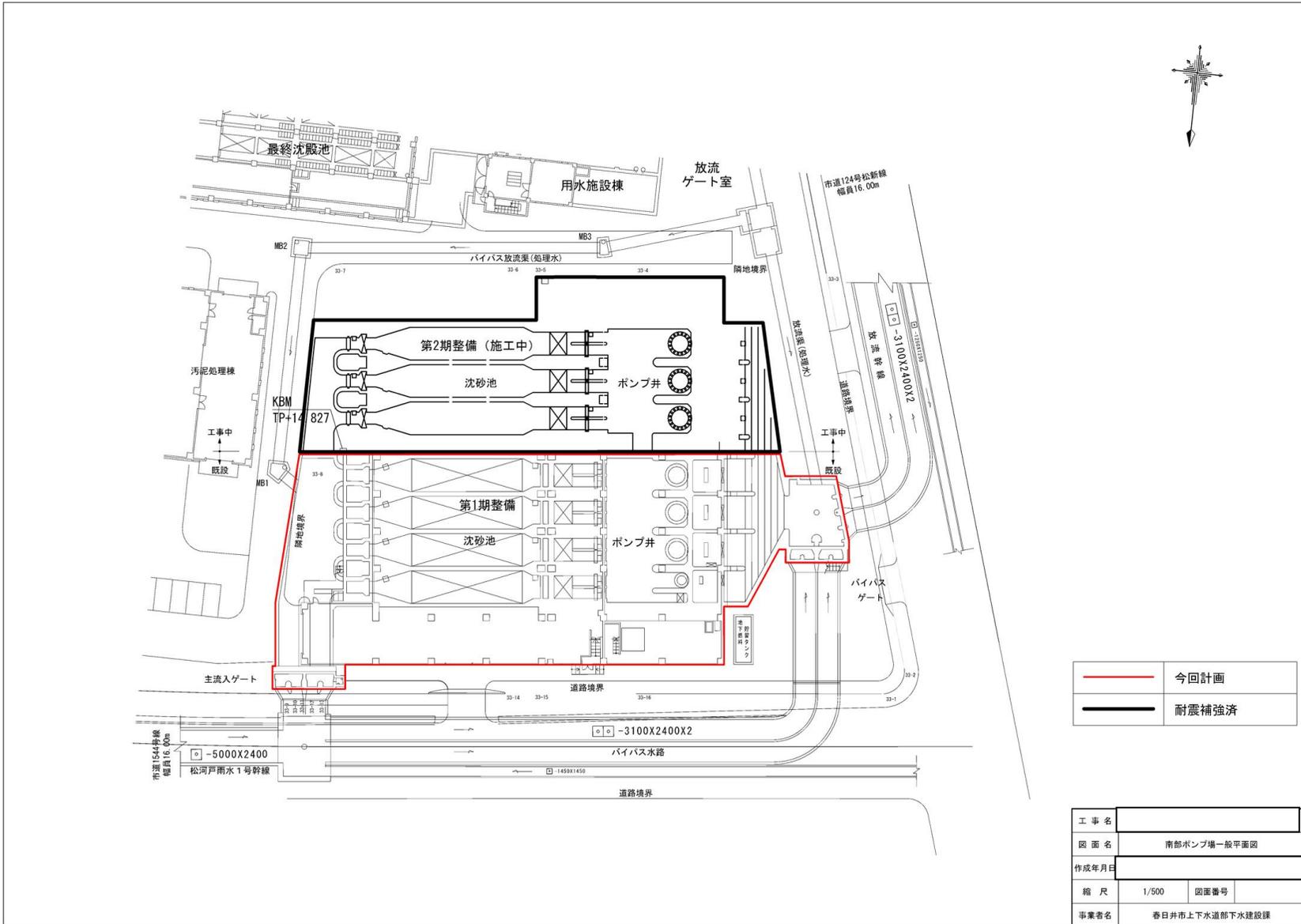
	今回計画
	耐震補強済

工事名			
図面名	第2中継ポンプ一般平面図		
作成年月日			
縮尺	1/200	図面番号	
事業者名	春日井市上下水道部下水建設課		

第2中継ポンプ場耐震対象施設



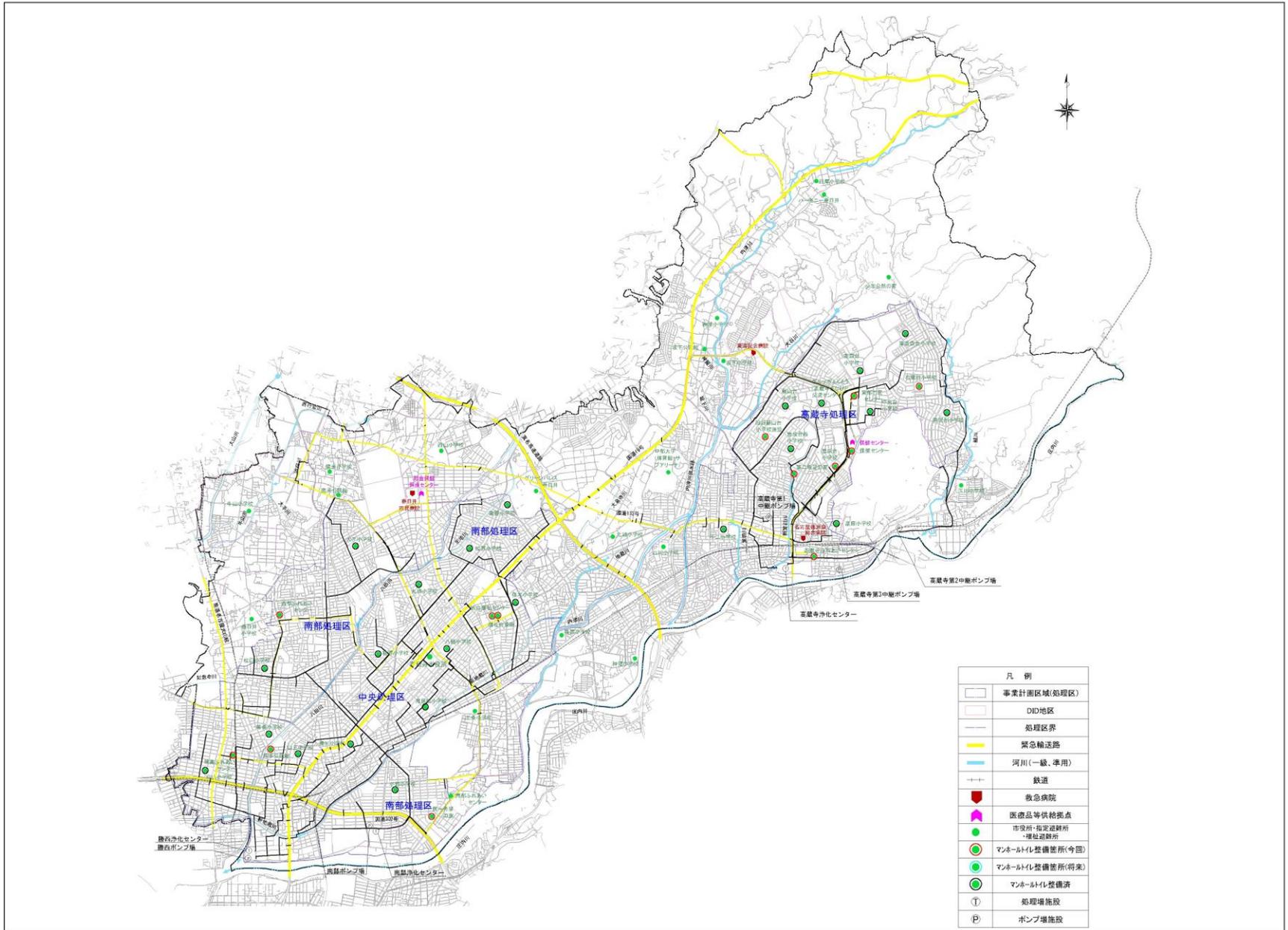
勝西ポンプ場耐震対象施設



	今回計画
	耐震補強済

工事名			
図面名	南部ポンプ場一般平面図		
作成年月日			
縮尺	1/500	図面番号	
事業者名	春日井市上下水道部下水建設課		

南部ポンプ場耐震対象施設



マンホールトイレシステム整備箇所図